

- 問1 東南アジアなどの熱帯地域において、大規模な農園であるプランテーションで組織的に栽培されている農作物のうち、果実から採取される油が植物油や石鹸、マーガリンなどの原料として広く利用されているものはどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)
1. サトウキビ 2. カカオ 3. 綿花 4. 油ヤシ
- 問2 21世紀に入り急速な経済成長を遂げているアジアの国に関する説明です。2019年の統計において、自動車生産台数が約452万台に達し、アジアでは中国、日本に次ぐ第3位（韓国やタイを上回る規模）となっている国を次の中から選びなさい。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
1. タイ 2. 韓国 3. インド 4. ベトナム
- 問3 東南アジアのカンボジアに位置するトンレサップ湖では、乾期の終わりにあたる4月末には湖の面積が約3,000平方km、水深が1m未満となりますが、10月初旬には面積が約18,000平方km、水深が8m以上にまで劇的に拡大します。このような湖の規模の変化をもたらす気象的要因と河川の関係について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 岩手県公立入試 類似)
1. 夏に海から吹き込む季節風（モンスーン）の影響で降水量が多くなり、メコン川の流量が急増するため。
2. 中緯度帯の上空を一年中西から東へ吹く偏西風の影響で、熱帯低気圧が連続して発生し雨をもたらすため。
3. 赤道付近で一年中一定の方向に吹く貿易風の影響で、年間を通じて安定した降水量が確保されるため。
4. 冬に大陸から吹き込む乾燥した季節風の影響で、周辺の山岳地帯から大量の融雪水が流れ込むため。
- 問4 インドにおける宗教別の人口構成について、その割合の状況を正しく説明しているものはどれですか。 (2021年 兵庫県公立入試 類似)
1. 仏教の発祥地であるため、現在でも人口の約80パーセントが仏教を信仰している。
2. かつてイギリスの植民地であったため、キリスト教徒が人口の約80パーセントに達している。
3. 人口の約80パーセントをヒンドゥー教徒が占め、次いで約15パーセントをイスラム教徒が占めている。
4. 歴史的に西アジアとの交流が盛んであったため、イスラム教徒が人口の約80パーセントを占めている。
- 問5 ある農産物の生産データにおいて、メキシコやペルーなどのアメリカ大陸の国々と比較した際、タイで約3300万トン、パキスタンで約1400万トンと、アジアの国々で圧倒的に多く生産されている特徴をもつ作物はどれですか。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. とうもろこし 2. 米 3. 小麦 4. いも類
- 問6 アジア諸国における貿易の変化について述べた文として、経済発展の背景と輸出項目の変遷を正しく説明しているものはどれですか。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
1. 農業の近代化により、衣類や原油に代わって小麦や羊毛の輸出額が急増し、貿易の大部分を占めるようになった。
2. 資源の枯渇により、工業製品の輸出を縮小し、衣類などの伝統的な軽工業品の生産に特化するようになった。
3. 工業化の進展により、輸出の主軸が一次産品や軽工業品から機械類などの重化学工業製品へと変化した。
4. 重化学工業から軽工業へと産業の中心が移り、機械類に代わって綿花が最大の輸出品目となった。
- 問7 中国の沿岸部に経済特区が設置され、工業化が急速に進んだ結果、中国国内で生じた人口の動きや社会の変化として、最も適切な説明はどれか。 (2024年 福岡県公立入試 類似)
1. 外国企業の進出により沿岸部の環境が悪化したため、富裕層を中心に内陸部への移住が進んだ。
2. 内陸部の農業を振興するため、沿岸部の都市居住者を内陸部へ移住させる政策が優先された。
3. 沿岸部と内陸部の経済格差が解消されたため、地域間の人口移動はほとんど見られなくなった。
4. 賃金の高い仕事を求めて、内陸部の農村から沿岸部の工業都市への大規模な人口移動が起きた。
- 問8 アラブ首長国連邦の都市ドバイが、石油の輸送路となる海峡付近という立地を活かして、大規模な港湾施設や空港を整備した主な理由として適切なものはどれですか。 (2022年 東京都公立入試 類似)
1. 石油資源の枯渇に備え、物流や観光などを中心とした石油に依存しない経済構造へ転換するため
2. 海水を淡水化する施設を港湾内に集中させ、砂漠地帯の農業用水をすべてまかなうため
3. 周辺諸国から輸入した原油を精製し、付加価値を高めてから再びペルシヤ湾内へ輸出するため
4. 内陸部で採掘される鉄鉱石や石炭を輸出するための積み出し港を確保し、重化学工業を振興するため
- 問9 インドの産業について、2018年の工業出荷額の統計に基づいた特徴を述べた文として、正しいものはどれですか。周辺のパキスタンやスリランカでは繊維工業や食料品工業の割合が比較的高いことと比較して考えてください。 (2024年 宮城県公立入試 類似)
1. インドでは食料品工業が工業出荷額の過半数を占めており、重化学工業の育成は遅れている。
2. インドは工業出荷額においてスリランカに劣るものの、機械工業の割合だけは周辺国より高い。
3. インドの工業出荷額は周辺諸国と同水準であるが、繊維工業の割合が最も高い点が特徴である。
4. インドは周辺諸国に比べて工業出荷額が極めて大きく、石油製品や機械などの重化学工業が発展している。
- 問10 中国の農業に関する記述として、統計上の事実と地理的背景を正しく説明しているものはどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
1. 中国は米の生産量は世界1位だが、小麦は広大な農地を持つアメリカ合衆国が世界1位の生産量となっている。
2. 中国の農産物統計では大豆の生産量が最も多く、アメリカ合衆国を抑えて世界1位の生産国となっている。
3. 中国は小麦と米の生産量がいずれも世界1位であり、主に華北で小麦、華南で米の栽培が盛んに行われている。
4. 中国は小麦の生産量で世界1位だが、米についてはタイやベトナムなどの東南アジア諸国に次ぐ生産量である。
- 問11 タイとマレーシアの輸出上位品目の変遷をまとめた記録において、1980年時点と2016年時点の状況を比較した記述として正しいものはどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
1. タイでは1980年代から一貫して機械類の輸出が最大であり、2016年にはさらにその割合が拡大している。
2. タイでは1980年に「米・野菜・天然ゴム」が上位であったが、2016年には「機械類・自動車・プラスチック」が上位となっている。
3. マレーシアでは2016年においても、天然ゴムと木材が輸出総額の半分以上を占める主要な輸出品のままである。
4. マレーシアでは1980年に「原油・天然ゴム・木材」が上位であったが、2016年には「米・野菜・天然ゴム」が上位に代わっている。
- 問12 日本やアメリカなどの企業が、タイやマレーシアといった東南アジアの国々に生産拠点を移し、工業化が進展した主な理由として最も適切なものはどれですか。 (2020年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 現地の所得水準が日本より高く、高価な製品を大量に消費する市場として魅力があるため
2. 鉄鉱石や石油などの工業に必要な天然資源が、他の地域に比べて圧倒的に豊富であるため。
3. 労働者を低い賃金で雇うことにより、製品の生産費用を安く抑えることができるため。
4. 現地の労働者が持つ高度な技術を活用し、精密機械を効率よく開発するため。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 油ヤシ	プランテーション農業によって栽培される代表的な商品作物について、その用途を問う問題です。油ヤシから採れるパーム油は、加工食品や日用品の原料として世界中で需要が高まっており、熱帯地域の経済において重要な役割を果たしています。カカオはチョコレート、綿花は衣服、サトウキビは砂糖の原料となります。
問2	答え 3 インド	21世紀以降、豊富な労働力や高度な教育を受けたIT人材などを背景に経済成長が続いています。自動車産業においても、巨大な国内市場を背景に生産台数が急増しており、アジアにおける主要な工業国としての地位を確立しました。
問3	答え 1 夏に海から吹き込む季節風（モンスーン）の影響で降水量が多くなり、メコン川の流量が急増するため。	東南アジアでは、夏に海側から湿った空気を運ぶ季節風（モンスーン）が吹き込み、雨期となります。この影響で地域全体の降水量が増加し、大河であるメコン川の流量は5月ごろから急増して8月から10月にピークを迎えます。増水したメコン川の水が支流を通じてトンレサップ湖へと流れ込むことで、湖の面積や水深が数倍から十数倍へと拡大します。
問4	答え 3 人口の約80パーセントをヒンドゥー教徒が占め、次いで約15パーセントをイスラム教徒が占めている。	インドの宗教構成は、ヒンドゥー教が約80%と最も多く、次いでイスラム教が約15%となっています。仏教はインドで誕生した宗教ですが、現在のインド国内における信者数の割合は非常にわずかであり、むしろ後から伝播したイスラム教の方が大きな勢力を持っている点が統計上の大きな特徴です。
問5	答え 2 米	タイやパキスタンといったアジアの国々で生産量が著しく多い農産物は米です。アジアの多くの地域は降水量が多く温暖な気候であるため、米の栽培に適しています。
問6	答え 3 工業化の進展により、輸出の主軸が一次産品や軽工業品から機械類などの重化学工業製品へと変化した。	アジアの多くの国々では、経済成長とともに産業構造が変化してきました。初期段階では天然資源（一次産品）や、安価な労働力を利用した衣類などの軽工業品が輸出の中心でしたが、教育水準の向上やインフラの整備、外資系企業の進出などをきっかけに工業化が加速しました。その結果、より高度な技術を要する自動車や電子部品などの機械類、すなわち重化学工業製品が輸出の大部分を占めるようになっていきます。
問7	答え 4 賃金の高い仕事を求めて、内陸部の農村から沿岸部の工業都市への大規模な人口移動が起きた。	経済特区を中心に沿岸部が急速に発展した一方で、内陸部との経済格差（所得格差）が拡大しました。そのため、より良い収入を求めて、内陸部の農村から沿岸部の工業地帯へと移動する「民工潮」と呼ばれる大量の出稼ぎ労働者が現れました。これは現代中国が抱える大きな社会問題の一つである「格差」の背景にもなっています。
問8	答え 1 石油資源の枯渇に備え、物流や観光などを中心とした石油に依存しない経済構造へ転換するため	ドバイは、将来的な石油資源の枯渇を見据え、「石油依存経済からの脱却」を国策として掲げています。ペルシャ湾の入り口という地理的優位性を利用して、世界的な物流のハブ（拠点）となる港湾を整備し、中継貿易や観光、金融などの産業を育成することで、持続可能な経済発展を目指しています。2018年の統計では、コンテナ取扱量が世界第10位に達するなど、その成果が表れています。
問9	答え 4 インドは周辺諸国に比べて工業出荷額が極めて大きく、石油製品や機械などの重化学工業が発展している。	南アジアにおけるインドの工業出荷額は約1兆2966億ドルに達し、パキスタンやスリランカを大きく引き離しています。その内訳も、石油製品、化学、金属、機械の合計が6割を超えるなど、重化学工業が中心となっている点が、軽工業中心の近隣諸国との決定的な違いです。スリランカの食料品出荷額がインドを上回ることではなく、規模の面でもインドが南アジアの工業を牽引しています。
問10	答え 3 中国は小麦と米の生産量がいずれも世界1位であり、主に華北で小麦、華南で米の栽培が盛んに行われている。	中国の農業は気候条件に適応した「南稲北麦（なんとうほくばく）」が特徴です。年間降水量が約1000mmのラインを目安に、比較的乾燥している北部の華北では小麦、温暖湿潤な南部の華南では米の栽培が中心となっています。この結果、中国は主要な主食作物である米と小麦の両方で世界1位の生産量を維持しています。大豆については、中国は世界最大の消費国・輸入国ですが、生産量ではアメリカ合衆国やブラジルの方が上位です。
問11	答え 2 タイでは1980年に「米・野菜・天然ゴム」が上位であったが、2016年には「機械類・自動車・プラスチック」が上位となっている。	統計上の品目の変化を見ると、タイはかつて農業を中心とした輸出構造を持っていましたが、経済発展に伴い工業化が進展しました。その結果、2016年の時点では機械類や自動車などが輸出の上位を占めるようになっていきます。一方でマレーシアも、1980年時点の原油や木材といった資源依存から脱却し、2016年には機械類や石油製品などの工業化が進んだ品目が上位に並ぶようになっていきます。
問12	答え 3 労働者を低い賃金で雇うことにより、製品の生産費用を安く抑えることができるため。	先進国である日本やアメリカに比べ、タイやマレーシアなどの東南アジア諸国は労働者の賃金が相対的に低い傾向にあります。企業は、この「低い賃金」の労働力を活用することで、製品の製造にかかる「生産費用」を安く抑えることを目的として進出しました。これにより、価格競争力のある製品を世界中に輸出することが可能になり、現地の工業化が急速に進みました。高度な技術や豊富な資源が主目的ではなく、あくまでコスト削減が最大の要因です。